

京都教区時報

京都教区広報委員会
(編集長 村上透磨)

京都教区本部事務局
京都市中京区
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

3頁～4頁 エコロジカルな回心と《もてなし》との関係
アントニオ・カマチョ神父

点訳版「京都教区時報」〈無料〉
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶺崎(たけざき)裕子さままでお申込みください。

TEL・FAX 079-431-8601

2019年 司教年頭書簡

教会の《もてなし》の使命

「国籍を越えた神の国をめざして」

今年の司教年頭書簡(教書)は「教会の《もてなし》の使命」国籍を越えた神の国をめざして」です。私たちは、今年も一緒に考えてみたいと思います。

さて、この問題をどこから始めたらよいのでしょうか。これは、創世記による人類創造のはじめから、アブラハムが太祖として選ばれたその時から、更にイスラエルの歴史全体を貫く問題です。新約に至っては、新しいイスラエルの歴史全体を総合する問題であり、それは神の民としての教会と宣教の歴史でもありました。

日本の教会でも、フランシスコ・ザビエルによって宣教が開始され、以来常に体験してきた問題です。

更に、明治以後に始まったキリスト教再宣教以来の問題でもあります。しかし、それが大きくクローズアップされた、ベトナム戦争と難民問題が起こった70年代以後、日本では特に意識され始めたのではないのでしょうか。

海外移住の問題では、南米移民の問題が

あります。韓国人朝鮮人の方々に対する様々な非人道的な処遇もそうです。

問題をあげればきりがありません。

そこで、年頭書簡(教書)の「はじめに」「移住問題は時のしるし」だと語り、この問題に取り組むことが重要なために、この教書を送られたと書かれています。私たちは、この教書の意味を理解し、ふさわしい対応に取り組むために、このテーマについて考えることにしました。



2
2019

教書には、明白に書かれています。が、その背後に、このテーマが教会憲章の特に「旅する神の民」、現代世界憲章の「世界の中にある教会」、第一回ナイス「社会に開かれた教会」、教区ビジョンの「社会と共に歩む教会」、つまり、現代の世界の、日本の、教区の、ビジョンに基づく一貫した態度であり、このテーマが教会の本質的なあり方を問うものであることも、心に留めておきたいと思います。

今年の「エコロジー」の時には、「大地、私たちの家」を考慮しながら、自然との関わりを学びました。今年は、私たちの家の庭に、思わぬ人々の群れが押し掛けた事に、驚き、戸惑い、反発や反感をどう克服したらよいか、という問題になっているように思います。それは、客を喜んで歓迎し、受け入れ、接待「もてなす」ことのできるような簡単な問題ではなくなっています。そこには「私たちが隣人を自分のように愛しなさい」という、キリスト者としての根本的な美しい教えとして、簡単に解答し、認め、理解し、すぐに

実践できるような生易しいものではなくなっていると思えます。それは「敵を愛する」以上に難しい問題なのかもしれません。

では、それに対してどうしたらいいのでしょうか。

(それは、司教が投げかけられ、教会の教えが、聖書が、私たち一人ひとりに投げかける宿題なのですが……)

でも、どうしたらいい？ どうしたらいい？

戸惑って手をこまねいているだけではない、それは私たちの信仰そのものが、問われてくることになるのではないのでしょうか。

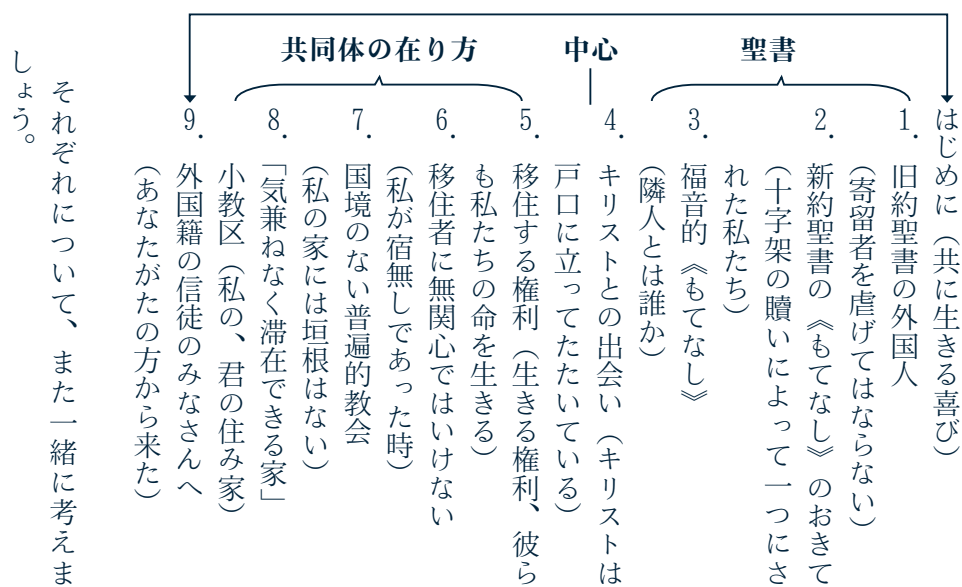
それでは、私たちは、この生活形態の刷新を皆一緒に祈り、黙想し、考えながら、生きなければ……となります。

真剣に祈り考えるならば、聖霊が光を与え、御父が答え、御子が語って下さるでしょう。

今は「兄弟が、一緒に住むことは何とすばらしいことか」(詩編133・1参照)と皆がお互いに言える日が来ることを願って……。

(村上透磨)

今回の司教教書の内容構成をまとめてみました。



エコロジカルな回心と

《もてなし》との関係

アントニオ・カマチョ

(広報委員会担当司祭)

善い行いで評判の良い人でなければなりません。子供を育て上げたとか、旅人を親切にもてなしたとか、聖なる者たちの足を洗ったとか、苦しんでいる人々を助けたとか、あらゆる善い業に励んだ者でなければなりません。

(テモテへの手紙 15・10)

フランシスコ教皇は、将来の世代に遺跡や砂漠や泥が残る危険性があるため、気候変動と闘うための「一体的な生態学」の有機的で協調的な行動を促しました。

大塚司教は、2018年の年頭書簡の中で私たちにエコロジカルな回心を促しました。環境問題をテーマとする教皇フランシスコの回勅『ラウダート・シ』を取り上げ、この回勅で教皇が提唱される「エコロジカルな回心」を昨年、読んで頂いたと思います。この環境問題に取

り組むすべての人の守護聖人であるアシジの聖フランシスコは、神と、他者と、自然と、自分自身との見事な調和のうちに生きた神秘家であり、まさに「エコロジカルな回心」のモデルです。教皇フランシスコはそれを『ラウダート・シ』の中で、4つの「エコロジカルな回心」として展開しています。それは、①神とのかかわりの回心、②他者とかかわりの回心、③自然とかかわりの回心、そして④自己とかかわりの回心です。聖フランシスコの名前をいただく教皇は、地球環境の深刻な破壊と危機を憂い、この問題を、地球という共通の家に住む人類全体で真剣に受けとめ、その解決のために具体的に行動しようと呼びかけています。皆様この事を覚えていきますね!!

このエコロジカルな回心と教会の《もてなし》とどういう関係があるのですか？

このエコロジカルな回心を、特に難民移住移動者を受け入れるために、私たちが意識しなければなりません。移住者に無関心ではいけないと思います。今年の年頭書簡のテーマは難民移住移動者と、「教会の《もてなし》の使命、国籍を越

えた神の国をめざして」とされました。京都教区においても、多くの外国人、特にベトナム、フィリピンの技能実習生が小教区のミサに参加するようになりました。私たちは今まで以上に多国籍多文化の共同体づくりについて深く考え、積極的に行動する時だと司教は思っています。

私たちは、ニュースで報じられる世界各地の難民と避難民に無関心であってはなりません。生命の危険と不安定な状況の中で生活し、社会から取り残され、排斥される最も弱く無防備な人々を見捨てておくわけにはいきません。移住者の困難な実情と、難民の過酷な状況について、常に関心をもっていることは私たちキリスト者の務めです。

日本が多文化共生社会になっていくのか、私たちキリスト者が福音的《もてなし》を実践し、率先して「出会いの文化」を生み出す努力をしなければなりません。これは教会にとって、「する・しない」の選択可能な付け足しの活動ではなく、教会の本来の使命として義務づけられたものです。

今こそ、すべての人に開かれた教会と

いう本来の姿を証しするときです。自分たちの小教区に来る外国人の信徒は、お世話をする対象という以上に、互いにキリストの兄弟姉妹として、一つの共同体を築く信仰の仲間なのです。京都教区の私たちも、外国人の信徒への関心を強め、寛容さを示しながら、お互いに対話の道を根気よく続けていくことが大切です。

「もてなし」

「小教区教会は、やって来るすべての人を喜んで迎え入れて、だれをも差別せず、だれも部外者とならないところです。教会はすべての人のための家庭であり、特に労苦する人、重荷を負う人にとって、我が家のように安心してくつろげる場所であればなりません。(年頭書簡8)」この時、教会共同体のアイデンティティーがしるしです。「彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。すべての人に恐れが生じた。使徒たちによって多くの不思議な業と行いが行われていたのである。信者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、財産や持ち



アブラハムとサラのもてなし

物売り、おのの必要に応じて、皆がそれを分け合った。そして、毎日ひたすら心を一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである(使徒言行録2・42-47)。

京都教区の私たちは、皆さんと出会って、信仰が人生にもたらす喜びと底力と、身についた信仰を日常で生きることの大切さを、あらためて学んでいます。家族を大切にし、家庭で祈り、こどもたちに信仰を伝え、生活のあらゆる場面で神の保護を祈り、感謝と希望を忘れない

生き方は信者の模範です。

私たちは共通の家に住んでいます。私たちは、共通の家を世話するという使命を持つ神の兄弟であり、移住者や巡回隊員の性格を持っています。私たちは親切にもてなさなければなりません。私たちは神の恵みは無償で受けたので、無償で共有しなければなりません。

「このような人々との出会いによって、わたしたちがともに祈り、ともに生きる教会や社会をめざすならば、日本の教会と社会に福音的変革がもたされると思います『国籍を越えた神の国をめざして』(改訂版) 教区時報2019年1月号11頁より」。

「何よりもまず、心を込めて愛し合いなさい。愛は多くの罪を覆うからです。不平を言わずにもてなし合いなさい。あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい(ペトロの手紙一4・8-10)」。

改めてもう一度、司教の2019年の年頭書簡を読んで、それを瞑想し顧みる、共有し生きるために。

2月のお知らせ

教 区

聖書委員会／Tel.075(211)3484 ㊥㊦

よく分かる聖書の学び

日 時：13日㊥ 10:30

講 師：北村 善朗師／参加費：300円

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

京都教区カトリック正義と平和協議会

学習会「外国人労働者の受け入れ」

日 時：9日㊥ 14:00～16:00

講 師：ビスカルド 篤子(シナピス)

場 所：西院教会

修 道 会

聖ドミニコ女子修道会(京都修道院)

みことばを聴こう！

日 時：11日㊥ 9:30～16:00

テーマ：神の民の記憶 ―聖書とミサ―

場 所：京都修道院

講 師：米田 彰男師(ドミニコ会)

対 象：青年男女／会 費：500円(昼食代)

締 切：7日㊥(事前申込要)

申 込：Fax.075(222)2573

E-mail kyoto@dominic.or.jp

ノートルダム教育修道女会

女子青年黙想会<希望の道>

日 時：16日㊥ 15:00～17日㊥ 15:30

テーマ：ルカによる受難

場 所：ノートルダム唐崎修道院

指 導：山内 十束師(御受難修道会)

対 象：独身女子青年信徒／費 用：2,500円

締 切：10日㊥(事前申込要)Sr. 桂川

申 込：Tel.077(579)2884 Fax.(579)3804

諸 団 体

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練 習：14日㊥ 10:00／28日㊥ 10:00

カトリック会館6階

心のともしび 番組案内

テレビ(衛星スカパー・ケーブル)スカイA

毎週土曜日 朝7:45

シリーズ「自分を深く知るために」

出演は Sr. 小野 恭世(イエズス孝女会)

ラジオ(KBS京都) ㊥～㊦ 朝5:55

㊥ 朝5:15

2月のテーマ「わたしの支え」

※ 4月号の原稿締切り日は2月13日㊥です。

京都カトリック混声合唱団

練 習：10日㊥ 14:00／23日㊥ 18:00 ミサ奉仕後

カトリック会館6階

聴覚障がい者の会(どなたでも参加可)

手話ミサと総会

日 時：19日㊥ 11:00～14:00

会 場：カトリック会館6階

参加費：700円(昼食代)

申込要：Tel・Fax.075(723)1135 傳(つとう) 裕子

望洋庵／Tel.075(366)8337

青年のための聖書講座

日 時：7日㊥／21日㊥ 19:00～21:00

指 導：菅原 友明師・大塚 乾隆師

参加費：200円(食事代含)

キリスト教講座①

日 時：13日㊥ 19:00～21:00

指 導：大塚 乾隆師

対 象：これから洗礼を希望する青年

参加費：200円(食事代含)

キリスト教講座②

日 時：12日㊥／26日㊥ 19:00～21:00

指 導：大塚 乾隆師

対 象：青年

参加費：200円(食事代含)

望洋庵支援の会黙想会(どなたでも参加可)

日 時：27日㊥ 15:00～28日㊥ 14:00

指 導：菅原 友明師・大塚 乾隆師

Sr. 黒田・Sr. 小瀬良

場 所：宇治カルメル黙想の家

参加費：6,000円

申 込：望洋庵 Tel.075(366)8337

京都キリシタン研究会

日本26聖人殉教記念ミサと特別行事

記念ミサ

日 時：10日㊥ 14:00

会 場：西陣教会聖堂

司 式：九里 彰 神父(カルメル修道会)

特別行事(ミサに先行して開催)

①日本26聖人殉教DVD上映

「殉教血史・われ世に勝てり」

12:00～13:40 西陣教会ホール

②巡礼「日本26聖人市内引き回しルート」

12:15 集合・出発 フランシスカン・チャペル

(四条岩上通り下ル)～12:45 西陣教会

お詫びと訂正

時報2018年12月号のこんにちには神父さんで小川神父様のお名前が靖志となっていました「靖忠」の間違いでした。お詫びして訂正いたします。

大塚司教の

2月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka



- 2日⊕ 10:00 故パウロ古屋司教命日
衣笠墓参
- 3日⊕ 11:00 西院教会ミサ
- 6日⊕ 15:00 中央協 財務委員会
- 7日⊕ 10:00 中央協 常任司教委員会
15:30 日本カトリック神学院
常任司教委員会
- 9日⊕ 9:30 洛星高校 卒業式
- 10日⊕ 10:00 高野教会ミサ

- 12日⊕-15日⊕ 2019年度 定例司教総会
(中央協)
- 17日⊕ 13:30 京都教区女子奉献生活者の会
講話・総会(河原町カトリック会館)
- 21日⊕ 11:00 聖家族幼稚園
聖堂訪問賛美式(河原町教会)
- 23日⊕ 11:00 子羊会 新年ミサ(西院教会)
- 24日⊕ 9:00 伊勢教会ミサ
- 25日⊕ 14:00 司教顧問会・モデラートル
合同会議
- 28日⊕ 10:00 ノートルダム女学院高等学校
卒業式

YES 2018報告

伊勢教会 濱口 聡子

11月10日(土)・11日(日)、唐崎メリノールハウス(滋賀)にてYES 2018(青年の集い)を開催しました。

テーマは、「聞いてよ、司教様!」。今年も大塚司教様をお招きし、講話をしていただきました。また、テーマのとおり、司教様に青年たちの“おもい”を聞いていただきました。

ベテランから若手まで幅広い年齢層の青年17名、司祭2名、司教(計20名)が集いました。

レクリエーションでは、司教様も一緒に、みんなで体を動かすことを楽しみ、司教講話では、司祭も青年も、真剣な面持ちで話に耳を傾け、学びました。また、メインプログラムである“聞いてよ! タイム”では、講話についてのこと

とだけでなく、日常生活における問題や結婚についてなど、青年らしい「聞いてよ!」の声があがりました。

一日目の夜には、聖堂でろうソクを囲み、振り返りの分かち合いと夕の祈りをし、派遣の祝福をいただきました。

全体を通して、アットホームな雰囲気の中で、青年たちがそれぞれに、のびのびと思いを伝え合い、交流でき、楽しく過ごすことができました。



YES 2018

〔青年センターHP〕 携帯からでもご覧いただけます。 <http://www.kyoto.catholic.jp/seinen/>

青年センターあんでな